

目次

学級	指導者	学級活動	議題名・題材名	ページ
1年1組	トトノ 友希・ 高 妻 藍	学級活動(3) 働くことの意義	題名 「おそうじ じょうずになるために」	1～
1年2組	宇都宮 静香	学級活動(1) 低学年の学級会	議題名 「2がっき がんばったね会をしよう」	5～
2年1組	佐藤 豪 祐	学級活動(2) 生活習慣の見直し	題材名 「みのまわりの せいりせいとん」	9～
2年2組	有浦 久美・ 大久保 絵美	学級活動(2) 食習慣の形成	題材名 「すききらいのない 食べ方」	13～
3年1組	今野 麻衣子	学級活動(2) いじめ防止	題材名 「いじめのないクラスに」	17～
3年2組	山本 雅志	学級活動(3) 学校行事 事前指導	題材名 「90周年を いわうために」	21～
3年3組	宮崎 怜・ 楠本 良枝	学級活動(2) 健康の保持	題材名 「感せんしょうからの 身の守り方」	25～
4年1組	山崎 歩実	学級活動(1) 中学年の学級会	議題名 「あいさつ入五No.1になろう」	29～
4年2組	馬場 友博	学級活動(1) ICT活用 オンライン交流	北海道 湧別小と話し合って決めた集会をしよう	33～
5年1組	橋本 希美	学級活動(1) 高学年の学級会	議題名 「冬を楽しもう集会をしよう」	37～
5年2組	中村 勇風	学級活動(2) 情報教育	題材名 「SNS との上手な付き合い方」	41～
6年1組	三浦 豊	道徳 D: よりよく生きる喜び	教材名 「マザーテレサ」特別活動との関連	45～
6年2組	原 千晶	学級活動(3) キャリア教育	題材名 「中学校生活に向けて」	49～

第1学年1組 学級活動(3) 学習指導案

場 所	1年1組 教室
対 象	1年1組 29名
指導者	担任 トレトノフ 友希 音楽専科 高妻 藍

1 題材 「おそうじ じょうずになるために」

学級活動(3) イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解

2 題材について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、明るく元気で、困っている友達に優しく声を掛けることができる。当番活動にも積極的に取り組む児童が多く、ペアで声を掛け合いながら進んで活動する姿も見られる。またルールや決まりについても、守ろうとする意識が育ってきている。目新しいことには、意欲的に取り組む児童が多い一方、やる気があっても、根気強く継続することに課題が見られる。1学期の後半から、6年生の児童と一緒に掃除をすることで、教室を掃いたり、机を運んだりするなどの、掃除の手順は分かりつつある。しかし、道具の正しい使い方、持ち上げて机を運ぶ、すみずみまできれいにするなど、細かな部分まではうまくできない児童が多い。また、周りの様子を見ながら友達と協力して机を運んだり、ほうきで掃いたり、積極的に掃除をしているものの、まだ雑巾を十分に絞れず、拭き直しをしなければならなかったり、自分がやりたいことだけをやろうとしたり、友達の行動に口を出したりすることで、トラブルにつながることもある。

(2) 題材設定の理由

掃除では、役割を分担して自分たちの教室や学校をきれいにする活動を通して、集団の一員としての在り方を考えさせ、実践させる活動とさせたい。その中で「仲間と協力する楽しさ」「働くことが誰かのためになる」「働くことは喜びにもつながる」ことを味わわせたいと考える。さらに、掃除をする喜びや充実感を味わわせ、友達と協力しながら活動させる中で、児童一人一人が仕事に責任をもって取り組もうとする態度や「なりたい自分」を考え、「今の自分」が取り組んでいることを意思決定させていく。そうした中で、掃除の技能を高めようとする態度を育てていきたい。

(3) ICTの活用



6年生の掃除の様子を動画に撮ったものを活用し、どんな点が自分たちと違うのか見付け出す。

3 本時の活動

(1) ねらい

これまでの掃除の仕方について振り返り、自己目標を決定することができる。

(2) 本時の活動

	児童の活動	指導上の留意点 (○) と評価 (☆)
つかむ	1 アンケートや写真から掃除に対するこれまでの取り組み方について振り返る。 2 本時のめあての確認をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">おそうじじょうずになるために、がんばることをきめよう。</div>	○事前にとったアンケートから、きれいにしたいという意識と実際の行動に差があることに気付かせるようにする。 ○自分たちの掃除の様子を写真を見せることで、課題を見付けたり、気付いたりすることができるようにする。
わかる・見つける	3 どうして掃除をするのかについて、考える。 4 6年生の掃除の様子や、掃除についてのインタビューを見て、掃除の良さを見付ける。 【ほうき・ちりとり】 ・すみずみまではいている。 ・しずかにごみをはいている。 【つくえはこび】 ・ひきずらないで、もちあげている。 ・ともだちといっしょにもっている。 【こくばん】 ・おなじほうこうにふいている。 ・ちからをいれてていねいにふいている。	○掃除をすることの良さや意義について、全体で共有できるようにする。 ○6年生の掃除の様子を動画で撮影しておき、良い掃除の仕方を見付けられるようにする。気を付けていることなどを動画の中で話してもらい、分かりやすいようにする。(ほうきの使い方、物を動かして掃いたり、拭いたりする様子) ○掃除をするとどんな良いことがあるかについても撮影しておき、掃除について考えることができるようにする。
決める	5 これから自分ががんばることを決める。 6 自分が決めたことを発表する。	○交流で出た意見を基にして、自分のめあてを考えることができるようにする。 ☆掃除についての課題に気付き、自分のめあてを考えている。 【思考・判断・表現】〈ワークシート〉

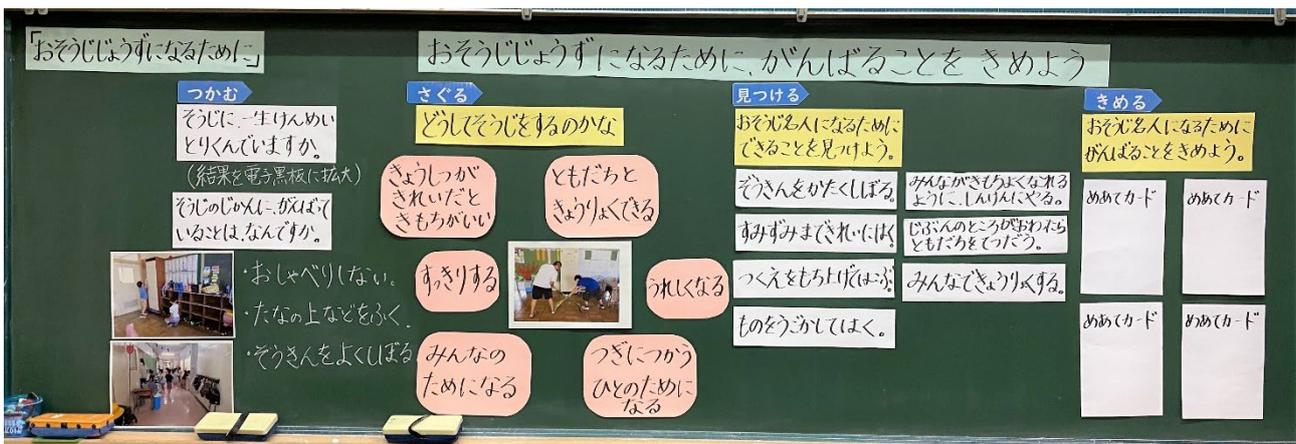
4 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点(○)と評価(☆)
本時で考えた自己目標を実践し、振り返る。	○1週間のお掃除マスターカードを記録させ、より掃除が上手になったことを実感できるようにする。 ☆自分の目標をきちんと実行して振り返ることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 〈ワークシート〉

5 評価

観点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことの意義を理解し、自己実現を図るために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことについての課題を知り、解決方法などについて話し合い、自分に合った解決方法を意思決定して実践している。	現在及び将来にわたってよりよく生活するために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを生かし、他者と協働して、自己実現に向けて進んで行動しようとしている。

6 板書計画



7 資料

「おそうじじょうずに なるために」



おそうじじょうず がんばりカード

ねん くみ

なまえ

そうじで じぶんが がんばること

/	/	/	/	/

◎・・・よくできた

○・・・まあまあできた

△・・・できなかった

1しゅうかんをふりかえり、じょうずにそうじできたことをかきましょう。

☆先生から

第1学年2組 学級活動(1) 学習指導案

場 所 1年2組 教室
対 象 1年2組 29名
指導者 担任 宇都宮 静香

1 議題 「2がっきがんばったねかいをしよう」

学級活動(1)ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

2 議題について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、何事に対しても意欲的に取り組むことができる児童が多い。仲が良く、休み時間には友達と誘い合ってグループで元気よく遊ぶ様子も見られる。

話し合い活動では、自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いたりしてみんなで一つのことに取り組むことの楽しさを感じているところである。しかし、楽しく活動したり、遊んだりする中で、ルールを守ることができずに自分勝手に行動してしまう児童や、相手を思いやることができずにトラブルを起こしてしまう児童もいる。そのため、相手のことを考えた意見を言ったり、みんなで決めたことを実践する良さを実感したりできるように指導している。

(2) 議題選定の理由

これまでの学級会では、「いりごタイムでなかよくなろう」「つゆをたのしもうしゅうかいをしよう」「1がっきがんばったねかいをしよう」などの議題で話し合いを行ってきた。学級会の進め方を知るとともに、みんなが仲良くなるためにはどんなことができるかを考えて決めてきた。その中で、みんなで何かに取り組むことの楽しさを感じているところである。2学期は、表現運動発表会などの大きな行事を通して、みんなでやり遂げるために頑張った充実感が見受けられる。また、練習の中で自分の頑張りだけでなく友達の頑張りにも目を向けることができる児童も増えてきた。そこで、みんなが頑張ってきたことを認め合えるような集会をしたいという思いから今回の「2がっきがんばったねかいをしよう」という議題を設定した。

「2がっきがんばったねかい」で、自分たちが成長したことを感じ、一緒に頑張った友達の頑張りも認め合えるような会を協力して作り上げてほしい。みんなで話し合って決めたことが、自分たちの学級を作り上げていることを実感できるような話し合い活動を展開したい。

(3) ICTの活用

「出し合う」の意見収集をスクールタクトで行う。(事前)

だい10かい 学きゅうかい	
ぎだい	2がっきがんばったねかいをしよう
ていあんりゆう	2がっきにみんなががんばったことをつたえあい、もっとなかよくなって3がっきもがんばりたいから。
きまっていること	日にち：12月16日金よう日 4じかんめ ばしよ：きょうしつ やること：2つ

みんなでやりたいこと	がんばったねカード こうかん
やりかた・ルール・くふうなど(くわしくかこう)	ともだちにかんぱりカードをかいて、こうかんする。 ひとりいちまいかく。

スクールタクトで集めた意見を、計画委員会で見て精選する。

3 本時の活動

(1) ねらい

自分たちの学級をよりよくするために、それぞれの意見の良さを考えて、自分の思いや考えを言うことができる。

(2) 本時の展開

	児童の活動	指導上の留意点 (○) と評価 (☆)
はじめの活動	1 始めの言葉 2 司会グループの紹介 3 議題の確認	○めあてをもって自分の役割に臨めるように助言する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 【議題】「2がっきがんばったねかいをしよう」 </div>	
主な活動	4 提案理由の確認 5 決まっていることの確認 6 話合いのめあての確認	○提案者の思いや願いを全員が理解し、学級全員の問題であることを確認する。
	7 話合い <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 話し合うこと ・何をするか </div>	○話合いが自分本位になった場合、みんなの頑張りを伝え合って仲良くなるという提案理由に立ち返り、相手意識をもって取り組むことを決定できるように助言する。
	8 出しあうで出た意見の確認 (1) くらべあう →より提案理由に合っているもの、今の学級がより良くなるためのものを考え、意見を比べる。 (2) まとめる →比べたことを基に、やることを決める。	○児童が自分たちの力で解決ができるように、見守る。 ○自治的な活動の範囲を超えることに、自分たちで気付かない場合は助言する。特に人権上配慮が必要な場合は指導する。 ○必要に応じて、折り合いをつけて合意形成を図ることの大切さについて助言する。 ○児童の活動の様子(発言・行動・つぶやき)を記録し、終末の助言で取り上げる。 ☆2学期に頑張ったことを伝え合い仲良くなれるような内容を考え、進んで自分の思いを伝えようとしたり友達の考えを受け止めたりしようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 〈観察〉〈学級会ノート〉
振り返り	9 決まったことの発表 10 話合いの振り返り 11 先生の話 12 終わりの言葉	○提案理由に沿った意見や全体を考えて言えていた意見を称賛する。司会グループの頑張りを伝え、実践に向けて意欲を高められるようにする。

4 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点(○)と評価(☆)
役割分担をする。 係ごとに計画を立てて、協力して準備をする。 帰りの会などで係ごとに経過報告を行ったり、お知らせを伝えたりする。 「2がっきがんばったねかい」を行う。 一連の活動を振り返る。	○役割分担の際は、必ず複数名になるようにし、全員で協力できるようにする。 ○準備の進捗状況を確認し、意欲が継続できるようにする。 ○集会のねらいを確認して、協力して実践できるようにする。 ○協力したり工夫して活動したりしている児童を称賛する。 ○自分の活動を振り返るとともに、友達の良かったところについても認められるように助言する。 ☆集会の成果と課題を振り返り、自他の頑張りに気付いたり、次の活動に生かそうとしたりしている。【主体的に取り組む態度】〈学級会ノート〉

5 評価

観点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団の一員としての話し合い活動や実践活動を通じた思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	みんなで学級生活を楽しむするために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 話し合いの進め方に沿った意見の発表の仕方や他者の意見の聞き方を理解し、活動の方法を身に付けている。	学級生活を楽しむために、問題を発見し、解決方法について話し合いの進め方に沿って合意形成を図り、仲良く助け合って実践している。	学級生活を楽しむために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己の考えをもち、役割を意識して集団活動に取り組もうとしている。

6 板書計画



7 資料

○きょうのぴかぴか



どうしてかというと、

○1～3に○をつけましょう。

1、はなしあいがたのしくできた。



2、ともだちのはなしをきくことができた。



3、おもったことをつたえられた。



○きょうのはなしあいのふりかえりをかきましょう。

(よかったところ、もっとこうしたほうがよいところなど)

第2学年1組 学級活動（2）学習指導案

場 所 2年1組 教室
対 象 2年1組 34名
指導者 担任 佐藤 豪祐

1 題材 「みのまわりのせいりせいとん」

学級活動（2）ア 基本的な生活習慣の形成

2 題材について

（1）児童の実態

昨年度から学級編成はそのまま変わらず、担任のみ交代した学級である。そのため、児童の関係はおおむね良好である。児童一人一人は、お互いの個性を受け入れ、良さを認め合いながら関わりをもつことができる。一方で、授業中に私語をしてしまったり、授業準備や整理整頓がうまくできなかつたりする児童も散見される。そのような児童に対しても、必要な時に優しく手を差し伸べることができる児童が多い。

学級の日常の整理整頓の様子は、すすんで本棚を整えたり、落し物を拾って届けたりといった行動が見られるようになってきた。このような場面を見た時は、帰りの会などで具体的によかったことを取り上げて称賛している。これらの積み重ねで、主体的に行動しようとする児童が増えてきている。また、整理整頓することや環境を整えようとすることに対する意識ももてるようになってきたと感じる。

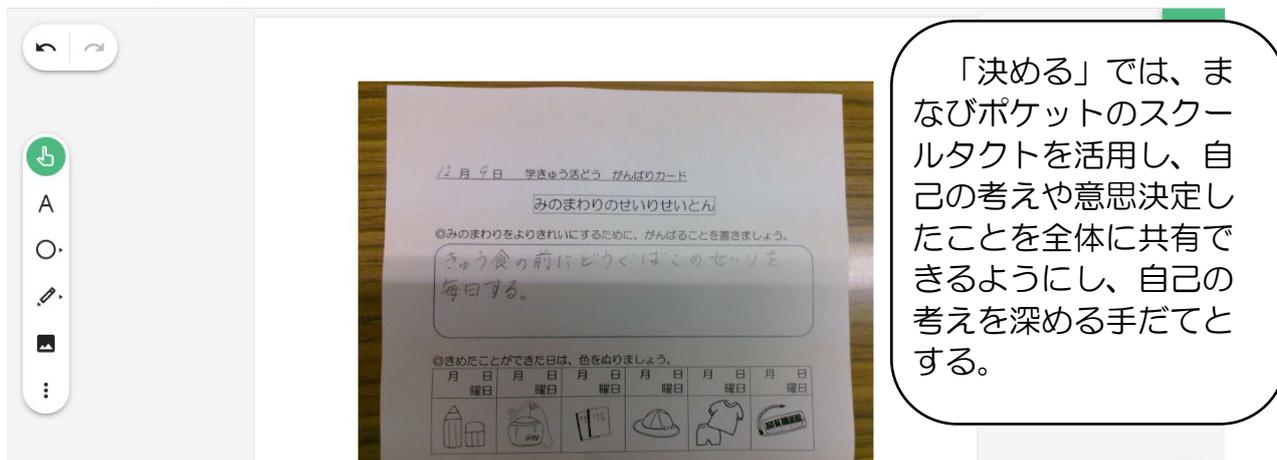
（2）題材設定の理由

少しずつ整理整頓をしようとする意欲が芽生えてきたため、具体的な目標を立てて実践させることで、さらに充実した生活を送ることができるようになるだろうと考えた。写真を用いて自分たちの身の回りの現状を把握させ、改善すべき課題を全員がつかみ、具体的に目標を立てられるようにしたい。それにより、多くの児童が机やロッカーなど、自分が整理整頓をすべき場所をすすんで片付けることによって、物が見つけやすく、授業の準備がスムーズにできるようにしたい。また、自己の生活が快適になることだけでなく、整理された環境は他者にとっても気持ちのよいものだと感じさせたい。

整理整頓に取り組む自主性や自己の物をしっかりと管理しようとする自立性を育み、自己に適した整理整頓の方法や仕方を意思決定できるようにさせたい。

（3）ICTの活用

ブックマーク 全校朝会 2 新しい算数2



「決める」では、まなびポケットのスクールタクトを活用し、自己の考えや意思決定したことを全体に共有できるようにし、自己の考えを深める手だてとする。

3 本時の活動

(1) ねらい

日常の生活習慣を見直し、身の回りの整理整頓の工夫を考え、自分が取り組むことを決めることができる。

(2) 本時の展開

	児童の活動	指導上の留意点(○)と評価(☆)
つかむ	1 教室や廊下の写真を見て、自分の身の回りの実態をつかむ。	○写真を基にこれまでの生活を振り返り、課題を自分事として捉えられるようにする。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> みのまわりのせいりせいとんの方ほうを考えよう。 </div>	
さぐる・見つける	2 整理整頓ができないとどんなことが困るのかを考える。	○実際に困った経験がないかを考え、発表できるようにする。
	3 なぜ整理整頓ができないのか原因を考える。	
	4 整理された環境と整理されていない環境を比較して、整理することの良さを考える。	○整理整頓をすることによって、周りの人も気持ちよく過ごすことができるといったことにも気付けるよう、共有物の資料を提示する。
決める	5 どうしたら整理整頓ができるのか考え、課題解決に向けた工夫を話し合う。	○「ちゃんと片付ける。」などではなく、具体的な場面を考えて話し合うように助言し、自分が行うことを意思決定できるようにする。 ☆課題解決に向けた取り組みを具体的に考えて、自分が行うことを決めている。【思考・判断・表現】 〈ワークシート〉
	6 自分が頑張ることを決めて、「がんばりカード」に書く。	○自分が意思決定したことを「がんばりカード」に書けるようにする。
	7 「がんばりカード」に記入後、撮影をしてスクールタクトに取り込む。 8 自分が頑張ることを発表し合う。	○スクールタクトで意思決定したことを共有することによって、思考を深められるようにする。 ○決めたことを伝え合うことで、互いに頑張ろうとする気持ちを高めていく。

4 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点(○)と評価(☆)
期間を決めて、チャレンジカードに実践したことを記録させる。	○自分の立てた目標について振り返る時間を作り、毎日自己評価できるようにする。
振り返りを書かせ、今後も継続して実践していく意欲を高める。	☆自分で意思決定した目標に進んで取り組もうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】〈ワークシート〉

5 評価

観点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	自己の身の回りの諸活動の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、基本的な生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	自己の身の回りの諸活動を知り、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、進んで課題解決に取り組み、他者と仲よくしてよりよい人間関係を形成しようとしている。

6 板書計画



7 資料

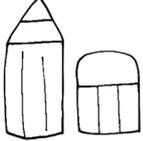
月 日 学きゅう活どう がんばりカード

みのまわりのせいりせいとん

年 組 名前 ()

◎みのまわりをよりきれいにするために、がんばることを書きましょう。

◎きめたことができた日は、色をぬりましょう。

月 日 曜日	月 日 曜日				
					

◎1週間をふりかえり、せいりせいとんをしたことでかんじたこと、考えたことを書きましょう。

◎先生から

第2学年2組 学級活動（2）学習指導案

場 所	2年2組 教室
対 象	2年2組 35名
指導者	担任 有浦 久美 栄養士 大久保 絵美

1 題材 「すききらいのない食べ方」

学級活動（2）エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

2 題材について

（1）児童の実態

元気で明るい雰囲気のある学級である。児童は給食の時間を楽しみにし、朝の会で給食のメニューの発表をしたり、果物の種類を学校栄養職員に聞きに行ったりするなど、食べることに興味をもっている児童がとても多い。給食室へ配膳ワゴンを返却するとき、お礼や感想をすすんで伝えることもある。一方で初めてのメニューは食べない、苦手な食材が混ざっていると食べない、など食べることに消極的な児童も見られる。しかし、学校栄養職員が食べている様子を見に来た時に「しっかり食べてね。」と声をかけると、張り切って残さず食べようとし、いつもより残菜が少なくなることもあるため、作ってもらった感謝の気持ちをもって「残さず食べよう。」という意識があることが分かる。

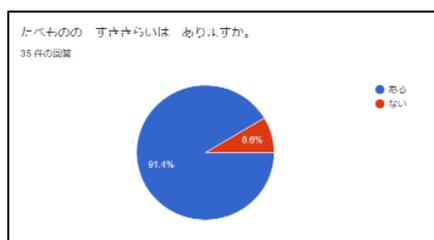
給食の苦手な食べ物についてのアンケート結果は、54%の児童が「苦手なメニューはない」「全部食べている」、残りの46%の児童は「半分食べる」「一口食べる」「食べない」となった。さらに、食べ物の好き嫌いについてのアンケートでは「好き嫌いがない」と答えた児童がたった2名しかおらず、残りの33名は何らかの好き嫌いがあることが分かった。

（2）題材設定の理由

児童の実態から、好き嫌いのない食べ方について考えさせる必要性を感じた。そこで本題材を通して、健康な体で過ごすためには食事で必要な栄養を得ることが大切であること、そのために給食の献立は栄養のバランスを考えて作られていることを知らせ、健康に生きるための食事について考えさせたい。方法として自分の給食の食べ方を振り返らせ、どこに問題があるのか課題意識をもたせる。その上で、食べ物の体内での3つの働きを知らせ、健康な体をつくるためのよりよい食事の取り方について考えさせる。3つのグループの食べ物を上手に組み合わせることでバランスのとれた食事ができることを給食の献立を通して理解させ、児童一人一人が健康に過ごすことを意識していろいろな食べ物を好き嫌いしないで食べようとする態度を身に付けさせたい。

学校栄養職員と連携し、給食の献立はバランスを考えてつくられていることや、野菜の栄養と体の健康の関係について説明する。給食を残さず食べることが健康な体作りにつながることを理解し、苦手な食べ物であっても少しずつでも食べようと意欲を高め、改善を図れるようにしていく。

（3）ICTの活用



アンケート回答処理と結果の共有



低学年児童でも使用しやすいタッチ機能を利用したワークシート

3 本時の活動

(1) ねらい

好き嫌いをしないで、何でも食べることの大切さを理解し、給食などで残さず食べるための工夫を考えて、自分が取り組むことを決めることができる。

(2) 本時の展開

	児童の活動	指導上の留意点(○)と評価(☆)
つかむ	1 給食後の食缶の様子の写真を見て、自分の給食の食べ方について振り返る。	○クラスの残食の写真を提示し、苦手な食べ物や好きな食べ物によって違いがあることに気付けるようにする。
	2 好き嫌いアンケートの結果を知る。	○自分の食べ方の問題点に気付けるようにする。
	3 献立について学校栄養職員の話聞く。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> すききらいなく食べられる方ほうを考えよう。 </div>		
さぐる・見つける	4 食べ物の働きを知り、何でも食べることの大切さについて考える。	○栄養が不足してしまうと起こる体の不調についても触れる。
	5 給食のメニューを3つのはたらきに分け、バランスよく食材が使われていることを知る。	
	6 元気な体でいるために、好き嫌いなく給食を食べる方法について話し合う。	○子どもたちからの考えが停滞した時には、教師からもヒントを提示する。
決める	7 自分が頑張ることを決めて、「がんばりカード」に書く。	○自分が決めたことを発表し合うことで、互いに頑張ろうとする気持ちを高められるようにする。
	8 自分が意思決定したことをクラスで発表し合う。	☆健康な自分でいるために、いろいろな食品を食べることの大切さが分かり、給食などで残さず食べるために自分が取り組むことを決めている。 【思考・判断・表現】〈ワークシート〉

4 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点(○)と評価(☆)
給食がんばりカードに5日間取り組む。	○給食の前後に自分のめあてを確認し、達成度を記入する。
取り組みを振り返り、気付いたことを発表する。	☆取り組みの振り返りを通して、これからめあてを継続して実践しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 〈ワークシート〉

5 評価

観点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	自己の身の回りの諸問題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、基本的な生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	自己の身の回りの諸課題を知り、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、進んで課題解決に取り組み、他者と仲よくしてよりよい人間関係を形成しようとしている。

6 板書計画



7 資料

元気な自分であるために 食べ方を考えよう

きゅうしよく がんばり カード

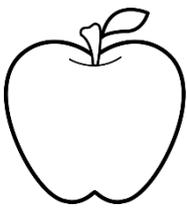
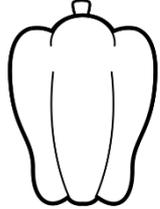
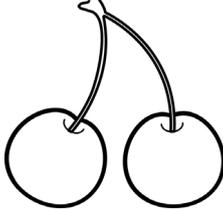
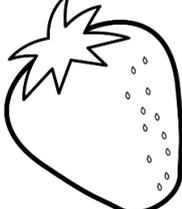
2年 組 名前 ()

食べもののはたらき

エネルギー、体をつくる、かぜよぼう

きゅうしよくを 食べるときに 自分が がんばること

できた日は 色をぬりましょう。

12日(月)	13日(火)	14日(水)	15日(木)	16日(金)
				

一週間をふりかえり、食事のとり方で考えたことを書きましょう。

先生から

お家の人から

第3学年1組 学級活動（2）学習指導案

場 所 3年1組 教室
対 象 3年1組 24名
指導者 担任 今野 麻衣子

1 題材 「いじめのないクラスに」

学級活動（2）イ よりよい人間関係の形成（いじめの未然防止）

2 題材について

（1）児童の実態

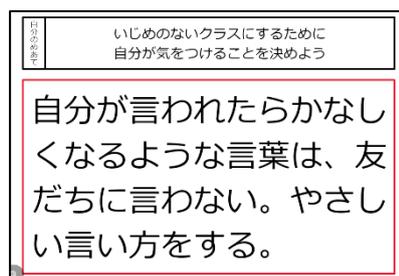
本学級は3年生で初めてのクラス替えがあり、4月から新しく人間関係を築いている。仲は良く、明るく素直で活発な児童が多い。低学年で学級活動を積み重ねてきたため、みんなで決めたことを実践する良さを実感できており、話し合い活動ではたくさん意見やアイデアが出る。また、友達の意見をよく聞くことや、他者の考えを聞いて折り合いを付けることができる児童が多い。

いじめについては、今現在いじめと認められることは発生していない。しかし、自分がしている行為が、友達にとっては嫌なことにつながっているかもしれないという視点で行動できない児童もいる。そのため、遊びの中で口調が厳しくなったり、人に嫌なことをしてしまったりする場面も見られる。児童が、自分の行為によって相手が嫌な思いをしているかもしれないと考えられるようにすると同時に、学級全体の風土として「いじめをしない、させないクラスにしなければ」という思いをもたせたいと考えている。あわせて、周りの状況に影響されることなく自分の考えで行動できる強い意志をもたせていく必要もあると考える。

（2）題材設定の理由

児童は、「いじめはいけないこと」という認識はあるが、いじめはどのようなものかという定義を理解している児童は少ない。法で定められているいじめの定義やいじめはいけないことをきちんと伝えることで、正しい知識を身に付けさせる必要がある。また、いじめには、「する側」「される側」だけでなく、「同調する観衆」「無関心な傍観者」が存在し、直接の当事者にあたる前者より後者の方が多数になるケースが多い。さらに、「傍観者はいじめに関わっていないから問題ない。」と考えている児童も少なくない。いじめに対する正しい知識を得ることで、「同調する観衆」も「無関心な傍観者」も直接の当事者と変わりがないことを理解させるとともに、誰もがそのひとりになり得る可能性を含む身近なものであることに気付かせたい。本時では、これまでの自己の振る舞いを振り返る活動を通して、いじめの問題を自分自身の問題として捉え、これから自分はどう行動したらよいかを意思決定し、忘れず実践していく態度を育てていきたいと考える。

（3）ICTの活用



スクールタクトを活用し、意思決定したことを共有する。



絵や動画を活用し、題材をスクリーンに投影する。

3 本時の活動

(1) ねらい

いじめとは何かを詳しく知り、これまでの自らの振る舞いを思い出し、これからどう行動していくのかを意思決定できる。

※本授業では、いじめという言葉を出さずに授業を進めることも考えたが、学習の目的の本意が直接的に伝わらないことが考えられるため、いじめという言葉をあえて使用し、身近な出来事として扱いたいと考えた。

(2) 本時の展開

	児童の活動	指導上の留意点(○)と評価(☆)
つかむ	1 いじめのつらさに耐えられなかった中学生のニュース映像を見る。 2 いじめとはどういうものなのかを下記のパネルを表示して知らせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 相手が心やからだにいたみを感じたら いじめなんだよ。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0; width: fit-content; margin-left: 20px;"> いじめ防止対策推進法 </div>	○動画に出てくる中学生が「もしも自分だったら」という視点で観るように促す。 ○いじめの定義を、児童の受け取り方を考慮し、易しい言葉で表す。
さぐる・見つける	3 本時のめあて <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;"> いじめのないクラスにするために、自分が気を付けることを決めよう。 </div>	
	4 学校生活で見られる4つの場面の絵を見て、いじめになる状況を考える。 5 4つの場面の絵のような状況を生まないために、どう行動すればいいのかを考える。	○絵に描かれている人物の細かな動きや目線に注目させ、いじめなのかふざけなのかを考えさせる。 ○班は、色々な考えを交換できるようにある程度意図的にグループ編成を行う。
	6 班で話し合ったことをクラス全員で共有する。	○班で話し合った内容を短冊に書いて、黒板に貼ることで視覚化する。
決める	7 話し合った内容を踏まえて、これからどのようなことに気を付けて生活していくのかめあてを決めてワークシートに書き、書いた部分を撮影してスクールタクトに取り込む。 8 1の動画の続きを見る。	○気を付けることを具体的に考えさせる。その際に、相手の気持ちに着目させる。 ☆自分が行うことを決めている。 【思考・判断・表現】〈ワークシート〉

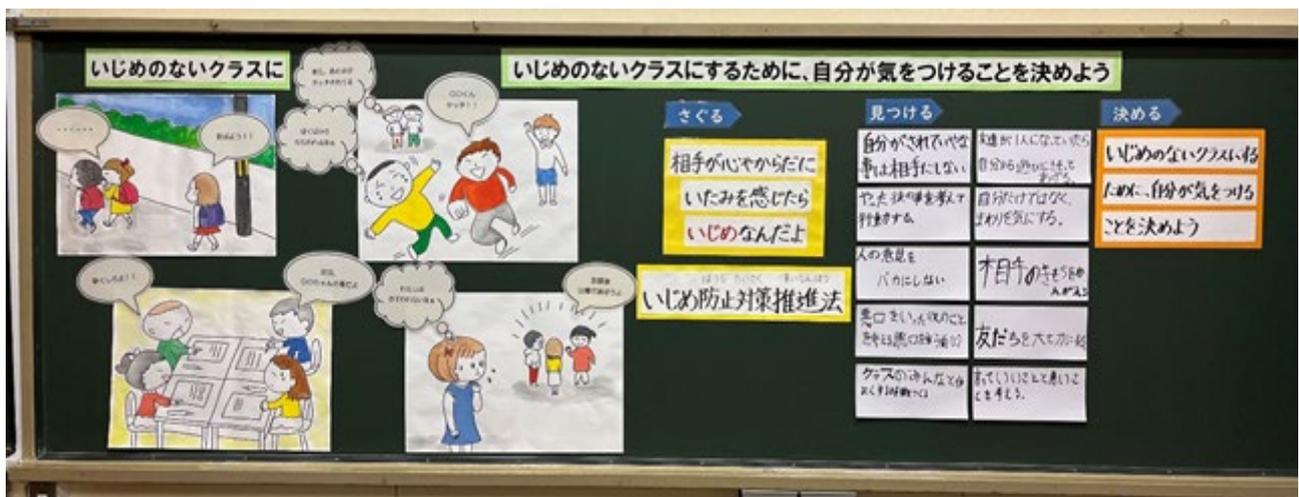
4 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点(○)と評価(☆)
<p>本時の学習から 1 週間振り返る。</p> <p>意思決定した内容がどれくらい達成できたのか、自己評価を行う。</p> <p>自己評価の後、全体で共有し、相互評価をする。</p>	<p>☆自己の生活を振り返り、意思決定した内容を意識しながら自分の行動と向き合っている。 【思考・判断・表現】〈ワークシート〉</p> <p>☆友達の振り返りを認め、自分自身に生かそうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】〈発言・観察〉</p>

5 評価

観点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	日常生活への自己の適応に関する諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、よりよい生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	日常生活への自己の適応に関する諸課題に気づき、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、意欲的に課題解決に取り組み、他者と協力し合ってよりよい人間関係を形成しようとしている。

6 板書計画



7 資料

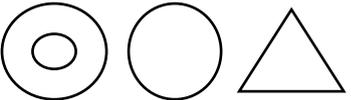
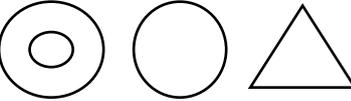
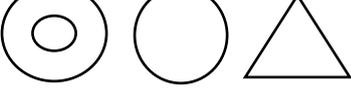
学級活動「いじめのないクラスに」

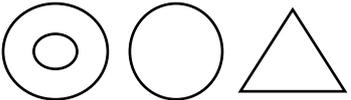
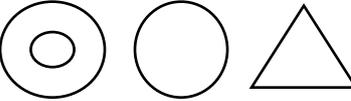
いじめのないクラスにしよう～がんばりカード～

3年 組 名前 ()

☆いじめのないクラスにするために、自分が気をつけること「めあて」を書こう。

(どんなときに)
(どう行動するか)

	☆自分のめあてが たっせいできたか
日 月曜日	
日 火曜日	
日 水曜日	

	☆自分のめあてが たっせいできたか
日 木曜日	
日 金曜日	

☆1週間をふりかえって、これからも続けていきたいと思うことを書こう。

☆友達の行動でいいなと思ったところを書こう。

第3学年2組 学級活動(3) 学習指導案

場 所 3年2組 教室
対 象 3年2組 23名
指導者 担任 山本 雅志

1 題材 「90周年を いわうために」(キャリアパスポートの活用)

学級活動(3)ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成

2 題材について

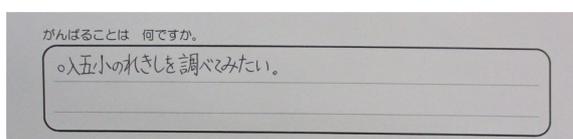
(1) 児童の実態

本校における3年生と学校行事の関わりは、健康安全・体育的行事であるスポーツ競技大会(5月)・表現運動発表会(10月)や遠足・集団宿泊的行事、3・4年合同遠足(5月)、また隔年で行われる文化的行事、学芸会・展覧会(2月)などである。3年生の担任3名は、各行事で身に付けさせたい児童の力を明確にするために、行事の事前・事後指導において、学年共通の指導をしている。児童は、それぞれの学校行事に向かう前に自らの目標を決めることで、主体的に行事に取り組む姿勢が身に付き、自分で意思決定したことを常に念頭に置きながら練習をしたり準備をしたりしている。キャリアパスポートについては、学期はじめと終わり、そして体育的行事の事前事後に活用し、ここまで5枚のシートの蓄積がある。この積み重ねにより、児童は活動の過程における自分の頑張りを確かめたり、次の活動への意欲につながったりすることができるようになった。更に中学・高校まで続くこのキャリアパスポートの積み上げは、その時々自分の心情や成長を確かめる素晴らしい足跡になると考え、今後も大切にしていきたい取組の一つである。

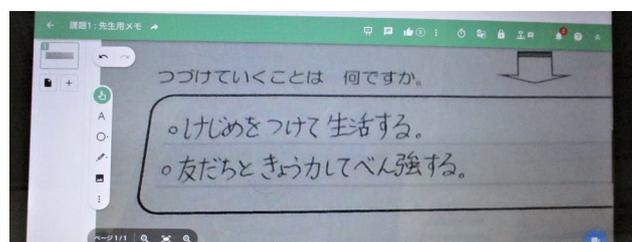
(2) 題材設定の理由

本校では10年刻みで周年のお祝いが計画されている。今年は90周年を迎え、学校に通う児童はもとより地域や同窓生の方々も非常に喜んでいる。本校の学校行事としては、儀式的行事である90周年記念式典が令和5年1月21日土曜日に行われることになっている。会場の関係で参加するのは5・6年生だけであるが、3年生も式典の様子を、翌23日月曜日に学年で視聴することになっている。そこで、記念式典の雰囲気味わわせ、更に5・6年生の学校を誇りに思う呼びかけや美しい歌声を聴くことで、周年行事の目的や様子を感じさせたいと考える。同席はしていないが、自分たちはこの学校行事にどのような気持ちで向うか、また、これからは入新井第五小学校を大切にしようとする気持ちを、3年生なりにキャリアパスポートにまとめさせたい。また、自分たちが参加する記念集会にも意欲的に参加し、集会を成功に向かわせたという達成感を味わわせたいと考える。更に3年生の中には自分の親が本校の卒業生の家族も少なくないこともあり、家庭や地域の方々とともに90周年を祝う心を大切にさせたいと考え、本題材を設定した。

(3) ICTの活用



実物投影機を用いて、電子黒板に写し出す。
それにより、全体を見やすくする。



タブレットで共有する。

3 本時の活動

(1) ねらい

式典に参加する5・6年生の90周年記念式典に対する思いを知り、自分たちも同じ気持ちで祝おうとする気持ちをもたせ、周年行事に対する自分なりの考えをキャリアパスポートにまとめる。

(2) 本時の活動

	児童の活動	指導上の留意点(○)と評価(☆)
つかむ	1 事前学習で書いたキャリアパスポート「周年行事に、どんな気持ちで参加し、何をがんばりたいか。」を発表する。	○自分の考えを事前にキャリアパスポートに書かせる。
かゝる・思ひこむ	90周年記念式典に対する思いを知り、自分なりの考えをキャリアパスポートにまとめよう。	
	2 卒業生(地域の方)からの周年の話や90周年を迎えたことについての思いを聞く。	○在校生だけでなく、保護者、卒業生、地域の方々が入五小の周年を祝っていることを知らせる。
	3 「周年記念式典に、どんな気持ちで参加し、どんなことをするのか。」について、6年生の考えを聞く。	○自分たちにとって周年行事は1回だけの貴重な体験であることや6年生が呼び掛けや歌の練習をしていることを知る。
	4 「周年行事に、どんな気持ちで参加し、何を頑張りたいか。」を話し合っ て、キャリアパスポートに書き足し、発表する。	○キャリアパスポートを実物投影機でホワイトボードに写し発表させる。 ○予想される頑張ること ・協力してみこし作りをする。 ・入五小の歴史を調べる。 ・よい姿勢で児童集会に参加する。
決める	5 90周年行事が終わっても、伝統を大切にしながら入五小に通うことに誇りを持ち、これからの生き方について自分なりに考え、キャリアパスポートにまとめる。	○書いたキャリアパスポートの写真をタブレット上で提出させる。更に共有させることで、友達の書いた内容を読み、自分の考えを深めさせる。 ☆頑張ること、続けていくことを決めている。 【思考・判断・表現】<ワークシート>

4 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点（○）と評価（☆）
めあてを意識して、周年行事に取り組む。 また、周年行事での経験を生かして、理想とする自分に近付くためにできることを継続する。	○周年行事において、自分のめあてを意識して、活動できるように、活動前にめあての確認、活動後に振り返りをさせる。 ☆自己のめあてに対して、自分の行動や生活を振り返り、生かそうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 〈ワークシート〉

5 評価

観点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことの意義を理解し、将来への見通しをもち、自己実現を図るために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことについて、よりよく生活するための課題に気付き、解決方法などについて話し合い、自分に合った解決方法を意思決定して実践している。	現在及び将来にわたってよりよく生きるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを生かし、他者と協働して、自己実現に向けて意欲的に行動しようとしている。

6 板書計画

90周年をいいうために

90周年記念式典に対する思いを知り、自分なりの考えをキャリアパスポートにまとめよう。

地いきの方

- 今でもよい思い出になっている。
- いつまでも入五小のこっていてほしい。
- 今の入五小の子どもがかんはっているとうれしい。

6年生

- 学校の代表としてりっぱなたいごで
- 入五のれきしを下級生に伝える。
- 歌の練習をがんばる。

どんな気持ちで

- 1回だけの行事なのでよい思い出になるように
- けじめをつけて
- 3年生らしくりっぱなたいごで

つづけること

- これからも友だちときょうかして学習する。
- けじめをつけて生活する。
- おかしなことをもっと調べる。

がんばること

- きょうかしておみこしを作る。
- 元気に校歌を歌う。
- 自分たちも入五小のれきしを調べる。

7 資料

学校行事 がんばりカード
＜開校90周年＞

なまえ

90周年行事のめあて

どんな気持ちで さんかしますか。

がんばることは 何ですか。

つづけていくことは 何ですか。



ふりかえろう

① がんばったことやできたことは 何ですか。

② 楽しかったことや、うれしかったことは 何ですか。

第3学年3組 学級活動（2）学習指導案

場 所	3年3組	教室
対 象	3年3組	22名
指導者	養護教諭	宮崎 怜
	算数少人数担当	楠本 良枝

1 題材 「感染症から身を守る」

学級活動（2）ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

2 題材について

（1）児童の実態

本学級は3年生で初めてのクラス替えがあり、4月から新しく人間関係を築いている。仲は良く、穏やかな性格の児童が多い。休み時間には、校庭に出て元気に体を動かす姿がよく見られる。一斉指導の際には、指示した内容と異なる行動をしてしまう児童がいたら、優しく声を掛けたり、見守ったりすることができる児童が多く見られる。また、話し合い活動では、提案理由に沿って考えることができ、たくさんの意見を出すことができる。

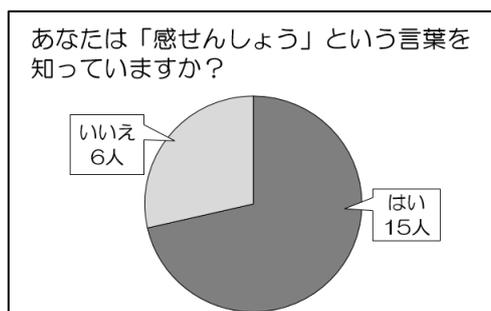
感染症予防策（不織布マスクの正しい着用・手洗い・手指消毒など）に対しては、家庭と連携して丁寧に指導を行っている。しかし、小学校入学時から今日まで感染症対策をしながら学校生活を送っていることから、慣れや気の緩みが見られるようになってきている。また、感染症について事前にアンケートを行った。その結果、感染症という言葉を知っていると答えた児童が21人中15人だった。さらに、感染症対策で取り組んでいることはあるかという質問に対して21人全員が手洗いをしていると回答した。ほかにも「密を避ける」「大声でしゃべらない」など3年生なりに感染症予防をして生活していることが分かった。

（2）題材設定の理由

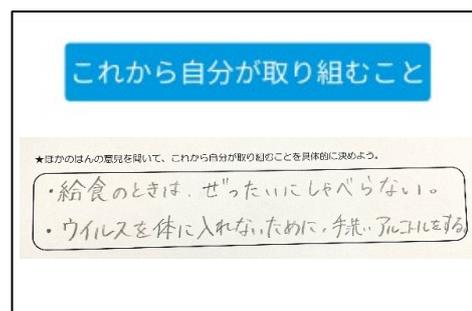
現在、新型コロナウイルス感染症が拡大している中、児童が健康で安全な生活を送ることができるように配慮する必要がある。

中学年では、行動の範囲が広がることにより、これまで身に付いていた生活習慣が崩れる恐れがある。日常生活の中で自らの問題点を発見したり、解決方法を考えたりする力が十分に育つように指導を行っている。現在、児童においても、感染者が増加している。そこで、感染が広がる原因を考え、自分の生活を見直すという学習を通して、感染症の種類や感染経路に対する知識・理解を深めるとともに、感染予防策を児童自らが実践していけるようにしたい。

（3）ICTの活用



プレゼンテーションソフトを活用し、アンケート結果を提示する。



スクールタクトを活用し、児童の意見を共有する。

3 本時の活動

(1) ねらい

感染症を予防することの大切さを理解し、感染症から身を守る方法について考え、自分が取り組むことを決めることができる。

(2) 本時の展開

	児童の活動	指導上の留意点(○)と評価(☆)
つかむ	1 事前アンケートの結果を提示する。	○事前にとったアンケートの結果を提示し、感染症に対する正しい知識と対策を身に付ける必要性に気付けるようにする。
	2 感染症の種類や感染経路について知る。	○感染症の種類と感染経路を知り、感染症予防のポイントについての理解を深められるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 感染症から身を守る方法を決めよう。 </div>		
さぐる・見つける	3 気を付けていても、やってしまうことについて考える。	○感染症を予防しているようでも実はできていないものがないかを考えさせるようにする。
	4 感染症から身を守る方法を考える。	○DVD「こんなことしていませんか？」を視聴する。
	5 個人で考えた身を守る方法を出し合い、班でまとめて発表する。	○映像の中のアイデアも参考にしよう助言する。
	6 話し合った内容を共有する。	○意見が伝わりやすくするために、ホワイトボードを活用する。
決める	7 感染症を予防するために自分が取り組むことをワークシートに書き、撮影してスクールタクトに取り込む。	○どのような場面で、何をどのように行うか、具体的な個人目標となるよう指導する。
	8 自分が決めたことを発表し合う。	☆感染症を予防することの大切さを理解し、自分の課題に合った具体的な目標を決めている。 【思考・判断・表現】〈ワークシート〉

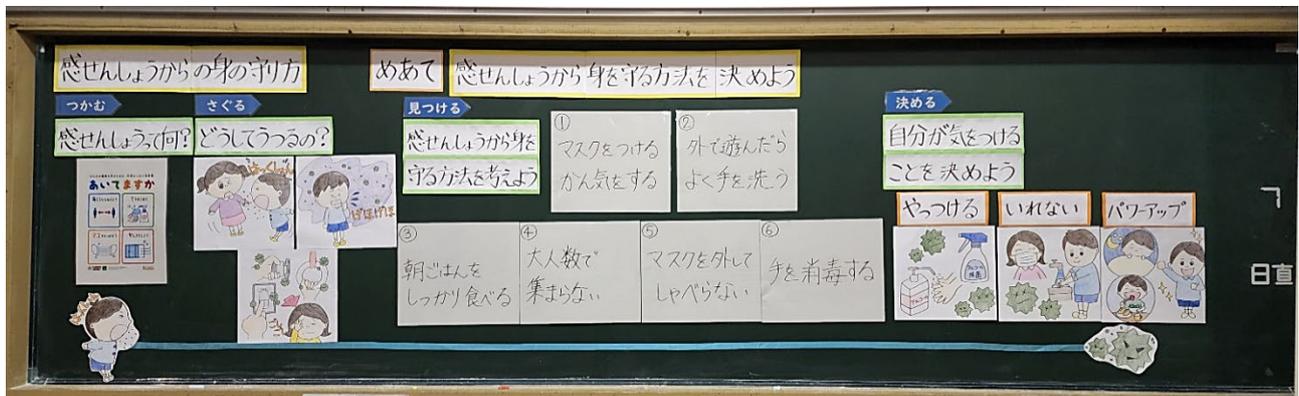
4 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点(○)と評価(☆)
自分の立てた目標や取組について1週間実践する。	○事後に振り返る機会を設定し、今後も実践に向けて継続した取組になるよう助言する。
意思決定した内容がどれくらい達成できたのか、自己評価を行う。	☆日常生活の実践の過程で、自己の課題を改善しようとしている。 【思考・判断・表現】〈ワークシート〉

5 評価

観点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	日常生活への自己の適応に関する諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、よりよい生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	日常生活への自己の適応に関する諸課題に気づき、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、意欲的に課題解決に取り組み、他者と協力し合ってよりよい人間関係を形成しようとしている。

6 板書計画



7 資料

感せんしょうからの身の守り方

3年 組 名前 ()

★感せんしょうから身を守る方法を書こう。

★ほかのはんの意見を聞いて、これから自分が取り組むことを具体的に決めよう。

★◎、○、△にまるをつけましょう。(◎…よくできた ○…できた △…もうすこし)

日 (月よう日)	日 (火よう日)	日 (水よう日)	日 (木よう日)	日 (金よう日)
◎	◎	◎	◎	◎
○	○	○	○	○
△	△	△	△	△

★1週間をふり返ろう。

★先生から

第4学年1組 学級活動（1）学習指導案

場 所 4年1組 教室
対 象 4年1組 33名
指導者 担任 山崎 歩実

1 議題 「あいさつ入五 No.1になろう！」

学級活動（1）ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

2 議題について

（1）児童の実態

本学級は、昨年度から学級編成は変わらず、担任のみ変更した。一人一人はとても素直で、前向きに物事に取り組める雰囲気がある。日常的に学級の目標を意識して行動することができる児童も見られ、学級の全員で仲良くしていこうと積極的に行動している。

話し合い活動では、自分の意見に自信がなかったり、他人事になってしまったりしていたため、発言できない児童が多く見られた。そのため、児童の思いをしっかり受け止めて安心できる雰囲気を作ることや、少人数のグループの話し合い活動の機会を多く設定するようにした。その結果、一人一人の意識が変わり、どの意見も大切にしようとする発言が出てくるようになった。また、友達の話を聞き、つなげて会話をすることができるようになりつつある。意見がまとまらないときの解決の仕方は繰り返し助言を行っているため、少しずつできるようになってきている。課題に対して真剣に話し合い、決めたことを協働して取り組むことで、お互いの良さを認め合えるようにしていきたい。

（2）議題選定の理由

5月に学級目標を決めるための話し合いを行った。「K：切りかえ上手」「A：あいさつ入五」「N：男女仲よし」になりたいという児童の思いから、「We KAN！（ウィーキャン）」という学級目標に決定した。この目標は合言葉となって児童の中に浸透しているものの、挨拶に関しては、私語に夢中になるとし忘れてしまったり、自分から挨拶をするときに声が小さくなってしまったりしている様子が見られる。そのため、学級目標の一つである「あいさつ入五」を達成できるように、そして学校全体に気持ちの良い挨拶を広められるように、自分たちにできる取組を話し合うことで課題解決につなげていきたい。

（3）ICTの活用

「A」あいさつ入五なクラスに、どのくらい近づいていると思いますか。*
100点満点のうち、何点が答えましょう。

B I U ↺ ↻

記述式テキスト（短文回答）

そのように考えた理由も答えましょう。

記述式テキスト（長文回答）

「学級目標に関するアンケート」をフォームで行う。

第 4 回 We KAN! 学級会 議題 「あいさつ入五になろう」

【やりたいこと】

4-1 あいさつ当番

【理由】

当番の人は責任感をもってあいさつをしようと思えるし、周り的人也ユナイトしてがんばろうと思えると思ったから。

スクールタクトで「出し合う」を行い、共有する。

3 本時の活動

(1)ねらい

よりよい学級をつくるために、課題を明確にとらえて話し合い、解決方法について理由などを比べ合いながら合意形成できる。

(2)本時の展開

	児童の活動	指導上の留意点 (○) と評価 (☆)
はじめの活動	1 始めの言葉 2 司会グループの紹介 3 議題の確認	○役割ごとに当日の自分のめあても紹介する。
	【議題】「あいさつ入五 No.1 になろう！」	
	4 提案理由の確認 (アンケート結果の提示) 5 決まっていることの確認 6 話し合いのめあての確認	○事前にとったアンケート結果を提示して、課題を明確にとらえる。
主な活動	7 話し合い <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">話し合うこと① ・どんな取組をするか。</div> (1) くらべ合う →より提案理由に合っているものや、今の学級がよりよくなるためのものを考え、意見を比べる。 (2) まとめる →比べたことをもとにやることを決める。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">話し合うこと② ・気持ちの良いあいさつを広めるための工夫。</div> (1) 出し合う →よりよい取組になるような工夫を出し合う。 (2) 質問する (3) くらべ合う (4) まとめる	○意見が出にくい時は、小グループで話す時間を設ける。 ○児童が自分たちの力で解決ができるように、最低限の助言のみ行う。 ○提案理由から話がずれてしまったら、「気持ちの良い挨拶」について共有したことを振り返るようにする。 ○自治的な活動の範囲を超えることに、自分たちで気付かない場合は助言する。特に人権上配慮が必要な場合は指導する。 ○児童の活動の様子(発言・行動・つぶやき)を記録し、終末の助言で取り上げる。 ☆それぞれの意見を尊重し、理由などを比べながら合意形成している。 【思考・判断・表現】 <観察><学級会ノート>
	8 決まったことの発表 9 話し合いの振り返り	
振り返り	10 先生の話 11 終わりの言葉	○提案理由に沿った意見や合意形成を図ろうとしていた意見を称賛する。司会グループの努力や良かった点を伝え、よりよい話し合い活動とは何か、具体的に振り返れるようにする。

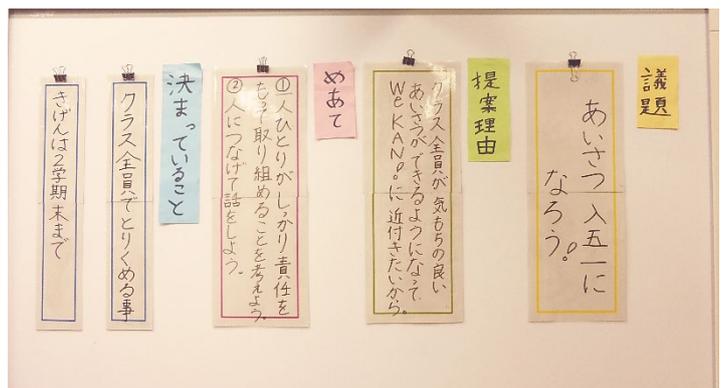
4 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点(○)と評価(☆)
<p>学級会で決まった取組に対して、学級で準備を行い、実践する。</p> <p>学級活動(2)にて、個人のめあてと自分にできる取組を考え、実践する。</p> <p>成果と課題を振り返りながら、学校全体の挨拶が気持ちの良い挨拶となるために、どのようなことができるか考える。</p>	<p>○実践は常時活動として行き、必ず振り返りを行うことで成果と課題を具体的に感じられるようにする。</p> <p>○学級としての取組、個人の取組、学校全体に広めるためにできることと段階を分けてステップアップしていくことで、成長と達成感を感じさせる。</p> <p>☆学級目標「A:あいさつ入五一」に近付くために、見通しをもったり振り返ったりしながら、役割を果たして集団活動に取り組もうとしている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 〈学級会ノート〉</p>

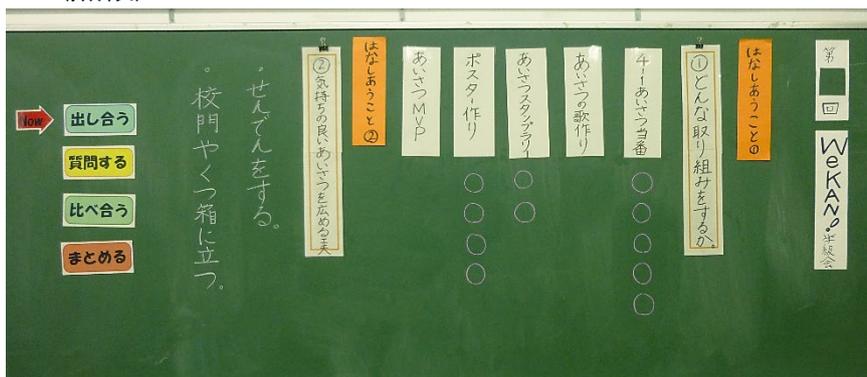
5 評価

観点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	<p>みんなで楽しい学級生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。</p> <p>意見の比べ方やまとめ方を理解し、活動の方法を身に付けている。</p>	<p>楽しい学級生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について理由などを比べ合いながら合意形成を図り、協力し合って実践している。</p>	<p>楽しい学級生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己の考えを生かし、役割を果たして集団活動に取り組もうとしている。</p>

6 板書計画



〈黒板〉



〈電子黒板〉

(/) 第 回 We KANI! 学級会

年 組 名 前 ()

議題 提案理由 決まっていること 括合いのめあて	
自分のめあて 意見 はなしあうこと① はなしあうこと②	【 】
	【 】
	【 】

計画委員会

学級会

学級会 O 学級会で光っていた人 () さん O よかったところ O 次の学級会に向けてがんばりたいこと O 次の学級会に向けてがんばったところ O 実践で光っていた人 () さん O クラスのよかったところ	集会 O 実践で光っていた人 () さん O クラスのよかったところ
学級会 O 学級会で光っていた人 () さん O よかったところ O 次の学級会に向けてがんばりたいこと O 次の学級会に向けてがんばったところ O 実践で光っていた人 () さん O クラスのよかったところ	集会 O 実践で光っていた人 () さん O クラスのよかったところ

学級会

集会

が 集 会 ま で に
が ん ば る こ と

向 次 に
向 け て

第4学年2組 学級集会活動学習指導案

場 所 4年2組 教室
対 象 4年2組 32名
指導者 担任 馬場 友博

1 議題「北海道湧別小学校とオンライン集会をしよう」

2 議題について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、3年生から持ち上がりのため、担任のみ変更した学級である。明るく活発な児童が多く、休み時間には男女一緒に仲良く遊んでいる。また、集会の準備においても、協力しながら進めることができる。話合いの場面では、発言している児童へ身体を向け、うなずきながら聞く姿が見られる。更に、学級の話合い活動では、心配案が出たときに、具体的な改善案を付け足すなど、相手の意見を尊重しようとしている姿も見られる。また、学級活動ノートの振り返りから、学級全員で協力して実践する楽しさや達成感を味わっている様子も、うかがうことができる。

日頃から、ICT端末を活用した授業を多く行っているため、目的に合わせて使うアプリケーションを選択する力も身に付いてきた。

湧別小学校とのオンライン交流では、プレゼンテーションソフトや画用紙など用いて、自己紹介や学校紹介を行った。互いの地域の様子や係活動の様子の動画を流しながら説明を加え、学校の活動の様子を紹介し合ってきた。

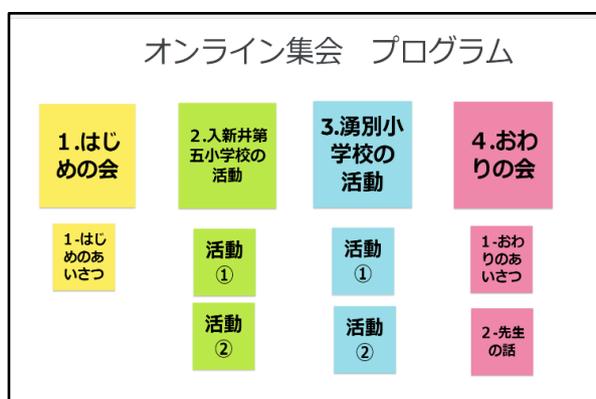
(2) 議題選定の理由

オンラインで交流を進めるにあたって、議題箱に「湧別小学校の友達ともっと仲良くなりたい。」「湧別小学校の友達と一緒に遊びたい。」「北海道のことをもっと知ったり、東京都のことをもっと教えたりしたい。」など、湧別小学校の児童と深く交流したいという意見が多く寄せられた。このことから、「北海道湧別小学校とオンライン集会をしよう」という本議題が選ばれた。互いの考えた遊びをオンラインで行うことを通して、湧別小学校の友達のことをより深く知ることができるようにしたい。

(3) ICTの活用



オンライン会議アプリを用いて交流を行う。



Jamboard を湧別小学校の児童と共有して、集会当日の司会進行について話し合っている。

3 本時の活動

(1) ねらい

湧別小学校とオンライン環境を生かした活動を、提案理由を意識して行い、仲間と協力して実践することができる。

(2) 本時の展開

	児童の活動	指導上の留意点 (○) と評価 (☆)
はじめの活動	1 始めの会を行う。 ・開会宣言 ・初めの言葉	○始めの会では本校児童が、終わりの会では湧別小学校の児童が行うというように役割分担をすることで、円滑な司会進行をできるようにする。
主な活動	2 入新井第五小学校提案の活動をする。 ・入五クイズ ・オンラインじゃんけん	○機材トラブルが起こった際は、迅速に対応できるように、事前にシュミレーションしておく。 ☆オンライン集会のめあてを意識して、友達と協力して取り組んでいる。 【思考・判断・表現】 <観察><学級会ノート>
	3 湧別小学校提案の活動をする。 ・湧別小クイズ ・オンラインあっちむいてほい	
	4 終わりの会を行う。 ・終わりの言葉 ・閉会宣言	
	5 学級会カードの記入をする。	
振り返り	6 終末の助言を聞く。	○終末の助言では、児童の振り返りの記述を基に、①提案理由を達成できたか、②一連のオンライン集会に関わる学級活動の価値付け、③今後の見通しについて簡潔に述べる。

4 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点（○）と評価（☆）
議題を決定する。	○選定した議題について、司会グループが全員に知らせ、確認できるようにする。
計画委員が話合いの準備をする。	○決まっていることが共通理解できるよう必要に応じて助言する。
それぞれの学校で話合いをする。	☆進んで自分の思いを伝えようとしたり、友達の思いや願いを受け止めようとしたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ＜観察＞＜学級会ノート＞
各グループが活動計画を立てる。	○湧別小学校と進捗状況を共有できるように、共有ファイル用いて活動計画を立てられるようにする。
活動計画を基に準備をする。	○湧別小学校との連携を密に図り、互いの進捗状況を報告できるようにする。
朝の会、帰りの会などを活用して、各グループが活動の進捗を報告する。	○意欲的に活動している児童、協力している児童などを称賛する。

5 評価

観点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	みんなで楽しい学級生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。意見の比べ方やまとめ方を理解し、活動の方法を身に付けている。	楽しい学級生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について理由などを比べ合いながら合意形成を図り、協力し合って実践している。	楽しい学級生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己の考えを生かし、役割を果たして集団活動に取り組もうとしている。

7 資料

◎議題集めカード

議題
提案理由
名前()

◎出し合う集めカード

話し合うこと①()
理由
話し合うこと②()
理由

第5学年1組 学級活動(1) 学習指導案

場 所 5年1組 教室
対 象 5年1組 39名
指導者 担任 橋本 希美

1 議題 「冬を楽しもう集会をしよう」

学級活動(1)ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

2 議題について

(1) 児童の実態

本学級は、5年生進級時にクラス替えがあり、担任も変わったため、4月から新たに学級づくりを行ってきた。素直で明るい児童が多く、仲も比較的良い。また、相手を喜ばせたい、相手のために何かをしたい、という気持ちをもつ児童が多く、自分たちで考えて企画し、実行に向けてみんなでひとつになって行動できる力をもっている。話し合い活動では、初めのころは、人の話を聞くことや受け入れること、自分の意見を適切な言葉で表現することが難しく、一部の児童の意見だけで決まってしまうことが見られた。しかし、話し合いの経験を重ねていき、話し合いの仕方を知ったり、自分たちで決め実践する楽しさを経験したりしていく中で、事前の活動から事後の活動、振り返りまで、自主的に取り組む姿が少しずつみられるようになってきている。

これまでの話し合い活動を通して身に付けてきた力が、自信になっている児童も多い。また、自分たちで決めて、自分たちで実践していくことの喜びや達成感を感じられるようになってきている。引き続き、児童が自分たちの学級や学校の生活をよりよくするために、合意形成したことに協働して取り組むとともに、一連の活動を振り返り、次の課題解決へつなげることを通して、児童の自治的能力を育てていく。

(2) 議題選定の理由

これまでの学級会では、みんなで話し合っ決めてたいこと、学級生活をよりよくするためにみんなで取り組みたいことについてアンケートを行い、提案者や学級全体の思いを踏まえて議題を決めてきた。夏には、「自分たちでお祭りを開催して、クラスみんなで思い出を増やしたい。」という思いのもと、「5の1夏フェス」を行っている。その経験から、「夏フェスの時のように、自分たちで仲良くなれる活動を考えて企画し、冬も、クラスみんなで楽しみたい。」という提案が複数人から挙がった。そこで、司会グループと教師から学級全体に問い掛けたところ、全員が提案者と同じ思いをもっていることが分かり、今回の議題を選定した。

(3) ICT活用

「出し合う」の意見収集をスクールタクトで行う。(事前)

第13回 学級会	
議題	冬を楽しもう集会をしよう
提案理由	2学期最後に楽しい時間をみんなで過ごし、クラスで冬の思い出をつくりたいから。そして、残りの日々もみんなで笑って過ごしたいから。
決まっていること	場所…教室 活動時間…30分 活動内容…2つ 日時…12月15日(木) 1時間目

①何の活動をするか
冬の歌を歌う
②会全体の工夫
活動の時に冬に関する 曲を流す

スクールタクトで集めた意見を、計画委員会で精選する。

3 本時の活動

(1) ねらい

提案理由に沿った話し合いを行い、自他の意見を尊重し、よりよい考えを導き出しながら、実現可能な活動の内容を決めることができる。

(2) 本時の展開

	児童の活動	指導上の留意点 (○) と評価 (☆)
はじめの活動	1 始めの言葉 2 司会グループの紹介 3 議題の確認	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 【議題】「冬を楽しもう集会をしよう」 </div>	
	4 提案理由の確認 5 決まっていることの確認 6 話し合いのめあての確認	
主な活動	7 話し合い <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">話し合うこと① ・何をするか</div> <p>(1) くらべあう →事前に出し合い、絞られた内容を確認する。</p> <p>(2) まとめる →比べたことをもとにやることを決める。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">話し合うこと② ・会全体の工夫</div> <p>(1) くらべあう →事前に出し合い、絞られた内容を確認する。</p> <p>(2) まとめる</p>	○児童が自分たちの力で解決ができるように見守る。 ○自治的な活動の範囲を超えることに、自分たちで気付かない場合は助言する。特に人権上配慮が必要な場合は指導する。 ○話し合いが自分本位になった場合、「仲良くなる」とはどういうことだったのかを再確認させ、決定できるように助言する。 ○児童の活動の様子（発言・行動・つぶやき）を記録し、終末の助言で取り上げる。 ☆みんなで仲良く冬を楽しめる内容を考え、自分たちに出来ることを、友達の意見の良さを生かしながら、折衷案や改善案を出している。 【思考・判断・表現】 〈観察〉〈学級会ノート〉
	8 決まったことの発表	
振り返り	9 話し合いの振り返り	
	10 先生の話	○提案理由に沿った意見や全体を考えて言えていた意見を称賛する。司会グループの頑張りを伝え、実践に向けて意欲を高められるようにする。
	11 終わりの言葉	

4 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点(○)と評価(☆)
<p>決まったことを基に、役割分担をする。</p> <p>担当する係ごとに分かれて、協力して準備をする。</p> <p>「冬を楽しもう集会」を行う。</p> <p>活動の振り返りを行い、次の活動に向けての目標を立てる。</p>	<p>○一人一役の役割分担を行い、活動への参加意欲を高める。</p> <p>○協力したり工夫して活動したりしている児童を称賛する。</p> <p>☆集会の成果と課題を振り返り、自他の頑張りに気付いたり、次の活動に生かそうとしたりしている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 〈学級会ノート〉</p>

5 評価

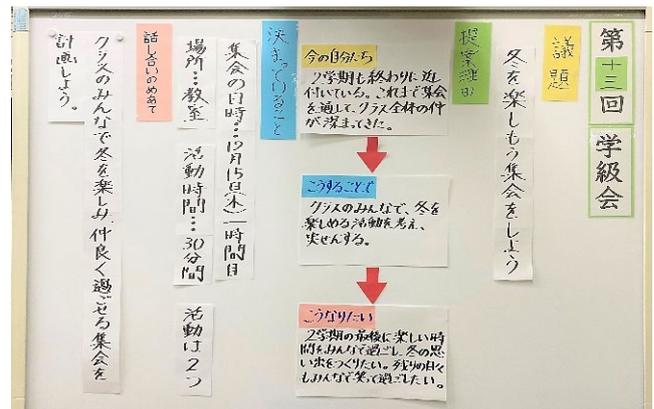
観点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	<p>みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。</p> <p>合意形成の手順や深まりのある話合いの進め方を理解し、活動の方法を身に付けている。</p>	<p>楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について多様な意見の良さを生かして合意形成を図り、信頼し支え合って実践している。</p>	<p>楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを発揮し、役割や責任を果たして集団活動に取り組もうとしている。</p>

6 板書計画

【黒板】



【電子黒板】



7 資料

第 回 学級会 月 日 ()

年 組 名前 ()

学級会までの準備	学級会
議題 提案理由 決まっていること 話合いのめあて	話し合うこと①【 考え… 理由… 話し合うこと②【 考え… 理由…
学級会	学級会

学級会	実せん活動
○「自分」のよかったところ・がんばったところ・成長したところ ○学級会で光っていた人【 】さん *どんなところが良かったか(理由)… ○「クラス全体」のよかったところ・前回より成長したところ ○学級会で決まった 自分の役わり【 】 ○どのようにがんばるか…	○「自分」のよかったところ・がんばったところ・成長したところ ○実せん活動で光っていた人【 】さん *どんなところが良かったか(理由)… ○「クラス全体」のよかったところ・前回より成長したところ

第5学年2組 学級活動（2）学習指導案

場 所 5年2組 教室
対 象 5年2組 38名
指導者 担任 中村 勇風

1 題材 「SNS との上手な付き合い方」

学級活動（2）イ よりよい人間関係の形成

2 題材について

（1）児童の実態

高学年になり心身ともに大きく成長しつつあるが、まだまだ幼い面が多く残されている。明るく、素直に活動に取り組む児童が多い。日常生活において互いに苦手なところをフォローし合い、大きなトラブルもなく過ごしている。休み時間にはみんなで仲良く遊ぶ姿も見られる。話し合い活動では、自分の意見をもって参加することができる。決まった児童が発言することが多いが、聞いている児童も教師や友達の意見をうなずきながら聞いている。情報機器を扱う機会は増えており、日常生活においてコンピュータやタブレット端末、スマートフォンを使う児童の割合が増えてきている。また、家庭においても自由に行動できる機会が増え、連絡手段として日常的に SNS を利用している児童もいる。

SNS 利用に関するアンケートを行った結果、100%の児童が携帯やスマートフォン、タブレットなどのインターネットに接続できる電子機器を所持していることが分かった。また、メールやコミュニケーションアプリを日頃から活用している児童は、全体の65%を超えることが分かった。

（2）題材設定の理由

高学年になり、携帯やタブレットを持ち始めた児童が増えてきている。メールやコミュニケーションアプリは、児童の間でもコミュニケーションツールとして利用されている。アプリでは、テキスト、写真、動画、スタンプなどをやりとりできる便利な機能がある。その反面、表情が見られないことや、短い文章で伝えようとするなどで自分の気持ちを上手に伝えられず、誤解やトラブルが発生することも多い。また、SNS では安易な投稿による個人情報の流出の危険性もある。しかし、SNS の利便性は非常に高く、これからの社会生活で切り離すことは難しい。SNS の特性を理解することで、有効な活用法を身に付け、児童の生活をより豊かなものにすることを目指したい。

（3）ICTの活用

SNSトラブルをさけるためには・・・

特定される可能性があるので個人情報は載せない	送信する前に落ち着いて内容を確認する	誤解を招くような言葉を使わない	ネットの危険性をしっかりと勉強しておく
------------------------	--------------------	-----------------	---------------------

Jamboard を活用し、グループの意見を共有する。

SNSトラブルをさけるために自分が気をつけること

- ・特定される可能性があるから個人情報は載せない。
- ・誤解を招くような言葉を使わない。
- ・相手に送る前に一度よく読んで確認する。

スクールタクトを活用し、自分の考えを打ち込む。

3 本時の活動

(1) ねらい

SNSなどを使う時の問題点や気を付けることについて話し合いを通して考え、SNSと上手に付き合えるようにするために、自分が取り組むことを決めることができる。

(2) 本時の展開

	児童の活動	指導上の留意点(○)と評価(☆)
つかむ	1 アンケート結果を確認する。	○アンケートを活用して、学級の実態を把握できるようにする。
	2 SNS 東京ルール、SNS いりごルールを確認する。	
SNS と上手に付き合う方法を考えて、自分が気を付けることを決めよう		
さぐる・見つける	3 SNS トラブルにはどのようなものがあるか考える。	○説明を補足しながら資料を提示する。
	4 トラブルの原因について考える。	○コミュニケーションアプリのトーク画面を見せ、どのような部分が問題であるかを考えられるようにする。 ○グループごとに話し合い、自分の考えを深めたり、新しい考えを見付たりできるようにする。
	5 トラブルにならないためにはどうすればよいか話し合う。(Jamboard)	○グループで話し合ったことを発表する。 ○SNS を利用しない児童に対しては、日頃の言葉遣いや手紙などを送る際の場面を想起させ、どのようにすべきかを考えられるようにする。
決める	6 トラブルを避けるために自分が気を付けることを決める。(スクールタクトに打ち込む)	○実現可能な具体的な目標や実践方法を決めることができるようにする。
	7 スクールタクトを活用して発表する。	○スクールタクトを活用してみんなの考えが分かるようにする。 ☆SNS を使うときに大切なことを考え、自分が気を付けることを決めている。 【思考・判断・表現】 〈ワークシート〉

4 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点(○)と評価(☆)
<p>本時で決めた取組を短期間で振り返る。</p> <p>友達同士で取組について確認し合う。</p>	<p>○朝の会や帰りの会で、友達同士で確認する時間を設け、本時の取組を意識できるようにする。</p> <p>☆めあてに対する、自己の行動や生活を振り返り、生かそうとしている。</p> <p>【主体的に取り組む態度】〈ワークシート〉</p>

5 評価

観点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	日常生活への自己の適応に関する諸問題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、健全な生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	日常生活への自己の適応に関する諸問題を認識し、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり、振り返ったりしながら、自主的に課題解決に取り組み、他者と信頼し合ってよりよい人間関係を形成しようとしている。

6 板書計画

SNS との上手な付き合い方

SNS と上手につき合う方法を考えて気を付けることを決めよう。

つかむ SNS 東京ルール
SNS いりごルール

さぐる SNSトラブルとは?
個人情報の流出
不適切な書き込み

見つける 自分が気を付けることを決めよう。

決める トラブルをさけて SNS と上手につき合う方法をたくさん見つけよう。

トラブルの原因は?
考え方がちがう
感じ方がちがう

SNSトラブルをさけるためには・・・

- 相手の気持ちに寄り添い、気持ちを察する
- 返信する前に手紙のように内容をよく確認する
- 誹謗を招くような言葉を使わない
- ネットの匿名性をしっかりと意識して書く

SNSトラブルをさけるために自分が気をつけること

- ・特定される可能性があるから個人情報は載せない。
- ・誹謗を招くような言葉を使わない。
- ・相手に送る前に一度よく読んで確認する。

7 資料

SNS との上手な付き合い方

名前 _____

SNS と上手に付き合う方法を考えて、自分が気を付けること

自己評価 (◎…よくできた ○…できた △…もうすこし)

月 日 (月曜日)	月 日 (火曜日)	月 日 (水曜日)	月 日 (木曜日)	月 日 (金曜日)

1 週間を振り返りましょう。

先生からのコメント

《指導にあたって》

1 特別活動の研究の中に、なぜ道徳の授業を取り入れたのか。

本学級は、年度当初に定めた学級の目標に向けて4月から取り組んできた。最高学年になったという喜びから、当初は一人一人が自分の目標に向けて高い意識をもって取り組んでいたこともあり、5年生の頃に比べ行動にも大きな変化が表れていた。しかし、時間が経つにつれて出てくる心の緩みや慣れなどの一面が、子どもたちの発達に比例して出てきたことにより、最初の思いは薄れ、当時のように意識して行動することが少なくなってきたように感じていた。そのため、生活指導や学級活動（2）など、どのような方法で指導をするべきかを考えていた。色々なアプローチの仕方がある中で、本時は道徳の授業によって指導していくこととした。

本来、道徳教育は道徳の授業のみで完結するものではなく、全ての教育活動において横断的に行われるべきものであると学習指導要領にも示されている。そこで、日々の特別活動の中で出てきた課題について足りないと感じていることを、道徳の授業を通して補充したり、心に深めさせたりすることが、最も活用したい方法であるという思いから、道徳の授業を行うこととした。

2 なぜ、マザーテレサという教材を当日の授業で扱うのか。

本来であれば、生活指導的な意味合いをもつ教材をもってくる方が即効性を期待できそうだが、あえてマザーテレサを扱うのには理由がある。そもそも道徳は即行動に移すことを目的とするものではなく、心を耕すために行うことを目的としている。今回は「よりよく生きる喜び」を内容項目として選んでいる。一つ一つの活動は、結果として自分が仲間とよりよく生きていくために行うことである。マザーテレサという偉大な存在の生き方を考える教材を通して、身近な生活指導ではない中で今までの自分を振り返り、これからの自分の生き方という大きなテーマについて考えさせていきたい。

第6学年1組 道徳科学習指導案

場 所	6年1組	教室
対 象	6年1組	25名
指導者	担任	三浦 豊

1 主題名 人々のために D よりよく生きる喜び

2 ねらいと教材

（ねらい）人間の強さや気高さについて考え、自分の目指す生き方、誇りある生き方に近付こうとする心情を育てる。

（教 材）マザー・テレサ（出典「かがやけみらい 6年道徳」学校図書）

3 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値について（価値観）

高学年になると、人間であれば誰しもがもっている弱さと同時に、それを乗り越えようとする強さや気高さについても理解することができるようになってくる。児童は、自分自身を人間としてより高めたいという思いや願いをもっている。また、崇高な人生を送りたいという人間のもつ気高さを求める心ももっている。そのため、自分自身の良さや可能性を自覚することで自らを奮い立たせ、目指す生き方、誇りある生き方につなげる大切さについて考えさせたい。

(2) 児童の実態（児童観）

目指す生き方、誇りある生き方につなげる大切さを考えさせるために、以下のよう
な指導を行ってきた。

特別活動「学級活動（3）キャリアパスポートの指導」

目指す生き方について考えるために、学期の初めや終わり、行事の前後など節目ご
とにキャリアパスポートに理想とする自分を思い描き、実現のための手だてを考え
るなど、特別活動におけるキャリア教育において、自己実現に向けた指導を行ってき
た。それらの指導の積み重ねから、自分が頑張っていることや苦手とすることへの理
解も深まっている。

日常の指導「生活指導」

自分自身で「このくらいでいいだろう。」「これは苦手だから…」と限界値を設定
してしまい、課題に対して必死に取り組むことや、少しでも良い結果につながるよう
に努力することを恥ずかしがるという傾向があり、「向上心」をもって取り組むこと
の大切さを繰り返し指導してきた。その成果として、取り組む前から諦めてしまうこ
とや、マイナスな言動も少なくなってきた。

学校行事「運動会や移動教室等における行事の事前・事後の指導」

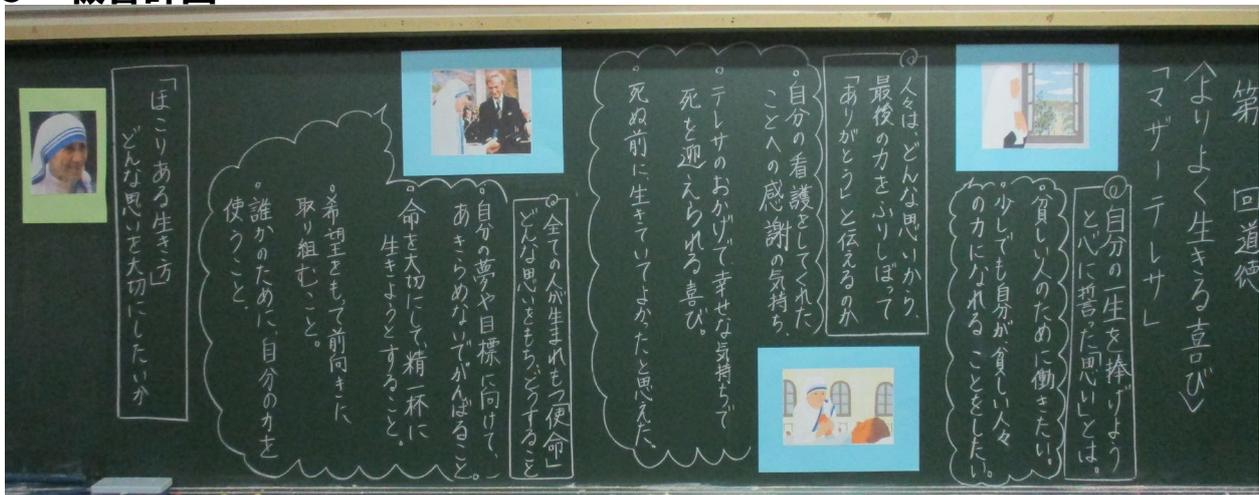
運動会や移動教室など、行事の事前・事後指導は、目標に向けた自己の取組や、そ
の中で感じたこと、悩んだこと、そして達成できた喜びについて、細かく振り返るこ
とができるよい機会となる。一つ一つの活動に取り組む際に、自分で決めた目標の達
成に向けて努力することで、児童は自分のもつ課題に向き合うことになる。その中
で、よりよい自分に近付くために、一人一人が一生懸命に取り組んできている。

4 研究主題に迫るための工夫

研究主題に迫るための特別活動と関連させて行う指導の工夫

特別活動（3）で扱うキャリア教育「中学校生活に向けて」と本時を系統立てて行
うことで、より効果的な指導を実現させていく。中学生になるという意識から「どん
な中学生になりたいのか」を考えさせていくことになる。そして、そのために残りの
3学期を自分はどのように過ごすのか、特別活動（3）におけるキャリア教育の中で
実践させていく。道徳科の授業を通して自己の生き方についての考えを補い、深める。
特別活動での実践活動と、心を育てる道徳教育とを横断的に行うことで、さらに児童
の心の教育へとつなげていきたい。

5 板書計画



6 学習展開

	学習活動 主な発問(◇)予想される児童の反応(●)	指導上の留意点 (○) 指導の工夫 (☆) 評価
導 入	1 事前アンケートの結果を知る。 ◇あなたが生きていくうえで大切にしたいことは何ですか。	○ねらいとする価値への方向付けを図るために、事前アンケートの結果を提示し、問い返す。
展 開 (前 段)	2 「マザー・テレサ」を読んで話し合う。 ◇何をしても心が満たされることはなかったテレサが、自分の一生を捧げようと心に誓ったのは、どのような「思い」からなののでしょうか。 ・ 貧しい人たちのために働きたい。 ・ 少しでも自分が貧しい人々の力になれることをしたい。 ◇なぜ人々は、テレサに対して最後の力をふりしぼって「ありがとう」と言い、息を引き取っていくのでしょうか。どんな思いから残された力をふりしぼってまで伝えているのでしょうか。 ◇この世に生まれてきた全ての人が、生まれもった使命とは、どんなことなのでしょう。どんな思いをもって、どうしていくことだと思えますか。 ・ 自分の夢や目標に向けて頑張ること。 ・ 命を大切にして、精一杯に生きること。 ・ 希望をもって前向きに取り組むこと。 ・ 誰かのために自分の力を使うこと。	○貧しい人々のために一生を捧げるというマザー・テレサの一貫した思いを押さえる。 ○マザー・テレサと死にゆく人々との関わりについて、最後の言葉に込められた思いについて多角的に考えられるようにする。 ○自分のこととして考えられるように、「この世に生まれてきた全ての人」に注目をできるようにする。 ☆マザー・テレサの人々に対する姿について意見を交わし合い、目指す生き方や誇りある生き方について考えを広げることができたか。 【思考・判断・表現】〈発言〉
展 開 (後 段)	3 自分の経験を振り返る。 ◇あなたにとって「誇りある生き方」に近付くために、何が必要だと思えますか。また、これからどんな思いを大切に生きていきたいですか。 (ワークシート)	○今までの学習を振り返り、「自分自身に関すること」においても誇りある生き方について考えてきたことを合わせて考えられるようにする。 ○じっくりと自己を見つめることができるようにするために、ワークシートを活用する。
終 末	4 映像を観て「よりよく生きる喜び」について考えましょう。	○ICTを活用して今までの写真を映し出し、今までのクラスメートとの思い出を味わわせることで、よりよく生きていく喜びに対して考え、余韻に浸ることができるようにする。

7 資料

よりよく生きる喜び「マザーテレサ」

名前 ()

この世に生まれてきた全ての人が、生まれもった使命とは、どんなことなのでしょう。どんな思いをもって、どうしていくことだと思えますか。

あなたにとって「誇りある生き方」に近づくために、何が必要だと思えますか。また、これからどんな思いを大切に生きていきたいですか。

第6学年2組 学級活動（3）学習指導案

場 所 6年2組 教室
対 象 6年2組 27名
指導者 担任 原 千晶

1 題材 「中学校生活に向けて」

学級活動（3）ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成

2 題材について

（1）児童の実態

本学級は、担任も児童も持ち上がりの学級である。昨年度は新型コロナウイルスの影響もあり、学年での活動に制限があったため、学級でできることをたくさん積み重ねていくことで仲を深めていった。全体的に落ち着いて行動することができ、場に応じた行動もすることができる。話し合い活動では、課題に対して真剣に考えたり友達との交流により、内容を深めたりすることができる。時には意見が分かれることもあるが、互いの意見をぶつけ合い納得できる結論に結び付けることもできつつある。また、卒業に向けて、下級生との関わりや行事の場面などで、これまでの自分の成長を振り返ったり、自分の将来について考えたりしている。

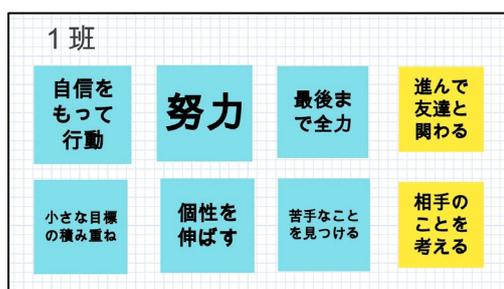
学級会の一連の流れを通して、友達の良さに気付いたり、協力して活動しようとしたりする態度が育ってきている。一方で、自分自身の良さを客観的に認知して、それを生かそうとする児童は多くはない。

（2）題材設定の理由

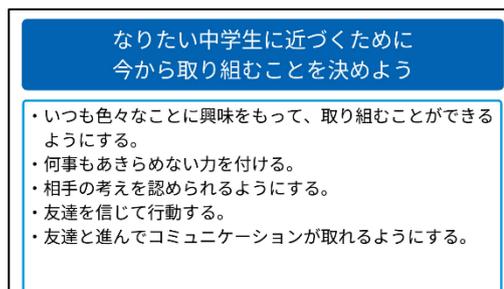
最高学年としての生活も残すところあと約4か月となり、行事や委員会・クラブ活動、たてわり班活動において下級生を気遣ったり、自分で考えて行動したりする姿が多く見られるようになった。また、各学期や行事ごとにめあてを立てて振り返りを行うことで、身に付けたい力や目指す自分像を意識することができるようもなってきている。

本題材は、中学校に向けての目標を決め、達成するために残りの小学校生活の過ごし方を考えることをねらいとしている。中学校生活に向けて、期待や不安を抱えている自分自身と向き合い、中学校へのつながりを意識させることは、より有意義な小学校生活を送るうえで大切なことであると考え。本題材が、「今の自分」の良さに気づき、取り組んでいくことを意思決定することで、今年度やその先の将来に向けて希望や目標をもって生きようとする態度の育成につながると考えて設定した。

（3）ICTの活用



Jamboard を活用し、グループの意見を共有する。



スクールタクトを活用し、自分の決めたことを共有する。

3 本時の活動

(1) ねらい

なりたい自分の中学生像について想像し、その実現のための取組を考えて、めあてを決めることができる。

(2) 本時の活動

	児童の活動	指導上の留意点(○)と評価(☆)
つかむ	1 アンケート結果から、中学生になるに当たっての自分たちの思いについて話し合う。	○現在の自分の中の中学生像を膨らませられるような発問をする。 ○アンケート結果を基に、中学生に向けて期待感や不安感を抱いていることを確認できるようにする。
	「なりたい中学生」に近づくために、これから取り組むことを考えよう。	
やぶる・見つける	2 これまでの学校生活を振り返り、自分の良さや可能性をさぐる。	○成長がわかるキーワードを板書し、「見つける」に生かす。
	3 中学生からのメッセージ映像を見る。	○メッセージを通して、中学校生活に魅力がたくさんあることに気付けるようにする。
	4 「なりたい中学生」に近づくために、残りの小学校生活でどのようなことに取り組めばよいかを考える。	○グループごとに話し合わせ、自分の考えを深めたり、新しい考えを見付けたりできるようにする。
	5 学級全体で話し合う。	○内容を全体で整理し、見やすいようにする。
決める	6 「なりたい中学生」に近づくために、残りの小学校生活で取り組むことを決める。(スクールタクトに打ち込む)	☆「なりたい中学生」に向けて、自分のめあてを意思決定しようとしている。【思考・判断・表現】〈スクールタクト〉
	7 スクールタクトを活用して発表する。	○実現可能な具体的なめあてや実践方法を決めることができるように助言する。 ○スクールタクトを活用してみんなの考えが分かるようにする。

4 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点(○)と評価(☆)
<p>自分のめあてを掲示し、12月の1ヶ月間取り組む。</p> <p>今までの実践を振り返り、目標を修正して、さらに3学期の間、取り組む。</p> <p>これまでの実践を振り返る。</p>	<p>○自分のめあてを可視化し、常に目標を意識して取り組みやすいようにする。</p> <p>○成果と課題を振り返る時間を設定し、更に自分に合った目標が設定できるようにする。</p> <p>○目標に向かって努力してきたことを称賛し、これからも目標をもってよりよい生活をしていこうとする意欲を高める。</p> <p>☆「なりたい中学生」に向けて、自分の変容を感じながら、意思決定した目標に向けて粘り強く実践しようとしている。</p> <p>【主体的に取り組む態度】〈ワークシート〉</p>

5 評価規準

観点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことの意義を理解し、自己のよさを生かしながら将来への見通しをもち、自己実現を図るために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことについて、よりよく生きるための課題を認識し、解決方法などについて話し合い、自分に合った解決方法を意思決定している。	現在及び将来にわたってよりよく生きるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを生かし、他者と協働して、自己実現に向けて自主的に行動しようとしている。

6 板書計画

7 資料

「中学校生活に向けて」

年 組 名前 ()

○中学校生活に向けて、今の自分の良いところや、これから必要なことは、どんなことですか。

○卒業までに自分の良さを生かして取り組むこと

--

【理由】

--

○月ごとのふり返し

12月	1月	2月	3月

○全体をふり返って

○先生から